

大牟田市立大牟田特別支援学校

1 本校のESDの特徴

本校では、「すべての人が質の高い教育の恩恵を享受できるようにする」「持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びに取り込まれるようにする」「環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすようにする」ことを重点目標とし、「交流及び共同学習」を核としたESDを推進している。

本校における「交流及び共同学習」は、近隣の天の原小学校、宮原中学校、有明工業高等専門学校との行事交流を中心に30年以上の歴史がある。また、子どもの居住地を校区とする市内各小・中学校との交流も増え、居住地校交流も盛んである。地域交流では、地域の方々を招待する学習発表会をはじめとして、サンアビ祭りや勝立地区公民館文化祭への児童生徒作品の出展など地域との交流を深めている。

さらに、平成24年度より、ユネスコスクール加盟校である新潟県見附市立見附特別支援学校との交流が始まり、お互いの学校紹介や学部紹介、作品交換などを行っている。令和2年11月時点で、国内においてユネスコスクールに加盟している特別支援学校は、本校と見附特別支援学校を含め12校である。令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、交流及び共同学習ともに参加者を制限したり、規模を縮小したり、活動（行事）そのものを中止したりしての実施となった。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画（◎：本年度実施できた活動）

	小学部	中学部	高等部	訪問教育
学 校 間 交 流	○七夕交流(6月) ※作品交流のみ実施 ◎なかよし交流(11月) ○合同運動会(11月) ○みんなで遊ぼう交流 (1月)	○七夕飾り交流(6月) ○七夕交流(6月) ○合同運動会(11月) ◎クリスマス会交流 (12月) ○わくわく交流(2月)	○高専音楽交流(9月) ○合同運動会(11月) ○高専作業交流(2月)	○合同運動会(11月)
	◎新潟県見附市立見附特別支援学校との交流(1学期:小学部・2学期:高等部・3学期:中学部)			
居 住 地 校 交 流	○子どもの居住地を校区とする市内各小学校(3学期実施予定)	○子どもの居住地を校区とする市内各中学校		
地 域 交 流	◎学習発表会(10月) ○サンアビ祭出展(11月) ○勝立地区文化祭出展 (11月) ◎合同作品展(2月)	◎学習発表会(11月) ○サンアビ祭出展(11月) ○勝立地区文化祭出展 (11月) ◎地域環境学習(2月) ◎合同作品展(2月) ◎校内販売会(2月)	○やぶつばき交流(7月) ◎学習発表会(11月) ○サンアビ祭出展(11月) ○勝立地区文化祭出展 (11月) ◎合同作品展(2月) ◎校内販売会(2月)	◎学習発表会(11月) ○サンアビ祭出展(11月) ○勝立地区文化祭出展 (11月) ◎合同作品展(2月)

3 特徴的な活動事例

＜「学校間交流」－天の原小学校とのなかよし交流－＞



本校は、天の原小学校と年に3回、七夕交流、なかよし交流、遊ぼう交流を行っています。新型コロナウイルス感染予防のため、七夕交流は、作品交流のみとなったが、11月には、「なかよし交流」を実施することができた。天の原小学校の5年生が本校の小学部児童のために、子どもたちの好きなイラストを入れた手作りの名札を作ってくれたり、いろいろな遊びを考えてくれたりした。交流では、自己紹介をして名札をつけてもらい、心を込めて作ってくれた遊びの道具を使って交流することができ、楽しい時間を過ごすことができた。お互いを理解し、親睦を深めることができるすばらしい交流となった。



魚つりゲーム



ツリーの飾り付け

＜「学校間交流」－中学部生徒と宮原中生徒とのクリスマス会交流－＞

本年度の「クリスマス会交流」は、「生徒が協力し合って、一緒に飾付けや歌・ゲームを行う中で、集団で活動することの楽しさを味わい、相互のふれあいを深める」をねらいとして実施した。

活動は、自己紹介→グループゲーム（ボールゲーム）→ツリーの飾り付け→クリスマスソング合唱→プレゼント交換→記念写真撮影の順で行った。本年度初めての宮原中学校の生徒との交流で、生徒たちは、最初はどう互いに接していいのか分からず戸惑いながら活動していたが、協力し合う活動を繰り返すことで、次第に笑顔で会話しながら活動に取り組む姿が見受けられるようになった。生徒たちからは「来年1月のわくわく交流も楽しみです。」という感想が聞かれた。

＜「国内外学校間交流」－高等部作業班の製品や作業学習内容紹介（掲示物）による新潟県見附市立見附特別支援学校との交流－＞

高等部では、農耕・木工・窯業・縫製・手工の5つの作業班に分かれ、年間2回の販売会に向けて、計画的に作業学習に取り組んでいる。作業班ごとに、1年間の作業学習で取り組んでいる活動内容とその様子を写真と説明文でまとめ、丁寧に心をこめて作り上げた製品とともに、新潟県見附市立見附特別支援学校に送付した。

また、本年度は、本校創立50周年の記念行事の記念品を作業班で分担して作り、来賓の皆様にもプレゼントした。同時に販売会も開催し、地域の皆様など多くの方々に作業班の作業学習の成果を披露することができた。



作品の交流

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・新型コロナウイルス感染予防のため、例年通りではなく、活動計画・内容を変更するなどしての実施となった。活動が制限された中で学校の交流や居住地校交流、地域交流を通して、他者と関わろうとする意欲が出てきている。また、学校生活の様々な場面で、自分の気持ちや考えをまとめたり、伝えたりする力が身に付いてきた。

○課題

- ・令和4年度の活動計画・内容については、これまでの交流・共同学習の実績をもとに、新型コロナウイルス感染状況を踏まえながら、随時、活動計画や活動内容の見直しを図る必要がある。